

# e-Learning教材 reallyenglish®の活用事例

—TOEICのスコアアップを目指して—

## An Example of Utilization of reallyenglish® as an e-Learning material

—For continued efforts toward achievement of higher scores of TOEIC—

柏原郁子  
Ikuko Kashiwabara

Kansai University has provided a new English on-line course: New Practical English by reallyenglish® since the spring of 2011. This on-line course offers 300 lessons across a wide variety of topics from business to everyday life to suit students' varied interests and needs. Students are required to complete 50 lessons to pass the course and it takes 225 to 300 hours to complete the whole course. This program would be an ideal material for students who wish to develop their English language skills, and help them achieve a higher TOEIC score.

In this article, I would like to explain how to use this program in the CALL classroom. And I shall report 28 of the students in my two classes has worked positively to complete this program for two months, and show the records of their detailed progress of their achievement. Their records suggest how many lessons would be suitable for the semester, and the level of most lessons in this material is suitable for the students. However it is a fact that a few students have a difficulty in working out. Individual coaching from a teacher will be the key elements for successful e-Learning.

Keywords: e-Learning, reallyenglish®, コーチング、TOEIC、

### 1. はじめに

最近担当するどのクラスにおいても、就職活動を意識してか「TOEICの得点をあげるためにはどうしたら良いでしょうか」という質問を、授業内外で質問されることが多くなってきている。週一回の授業だけで、TOEICの準備が万全となるわけではないだろう。ましてや授業時間以外に英語に触れる機会がない学生にとって、学生の望む得点を取得するのは困難であろう。TOEICの得点を伸ばすためには、やはり授業外での学習がポイントである。関西大学では2011年度から e-Learning教材 reallyenglish® (New Practical English 総合英語コース) (以下、REとする) が導入されている。対象レベルは初級～中・上級 (TOEICスコア350～750程度) で、

リスニング115レッスン、リーディング115レッスン、文法70レッスンの全300レッスンを含む英語力をバランスよく強化できる e-Learning 教材である。学生が1レッスンに費やす平均学習時間は45分から60分で、各レッスンのセクション3にあるレッスンテストを70%以上の成績を修めた上に、50レッスンを修了するとコース修了になるが、全300レッスンを修了するのに225～300時間を英語学習に費やすことになる。このREは、TOEICスコアアップにつながる教材であるので、2011年春学期の担当授業において英語教材として活用することを試みた。

本稿では、REの導入活用事例として、教室内でのREの初回オリエンテーションの仕方からどのように活用したかを紹介する。2011年度春学期の授業で試みた学生の学習履歴データを基に、REの利用状況、進捗状況、成績状況を述べ、今後のREの効果的な活用法を述べる。

## 2. TOEICの準備に心強いパートナー：RE

TOEICのスコアを上げたいと望む学生の中には、文法が苦手である、リスニングパートで得点を伸ばせない、また制限時間内でリーディングの問題全てに目を通すことができない、などの悩みを抱えている人もいる。関西大学では2010年度まで e-Learning 教材として ALC NetAcademy®「スタンダードコース」が利用できたので、このコースの「レベル診断テスト」を受験してもらい、語彙力とリスニング力の結果に応じて、レベルに応じた問題に取り組むよう指導していた<sup>1)</sup>。

2011年度から関西大学に導入されたREはマグロウヒル社の良質なコンテンツを e-Learning 教材として開発され、リスニング、リーディング、文法の全300レッスンを含んでいる。300レッスンはレベル2からレベル4に分類されており、レベル2はTOEIC350点から450点程度、レベル3はTOEIC450点から600点程度、レベル4はTOEIC600点から750点程度とされている。「診断テスト」に基づいて学習者のレベルに応じてカスタマイズされた10レッスンのカリキュラムが作成され、学習者は無理なく問題に取り組めるようになっており、苦手分野を集中的に学習して、効率的に弱点を克服することも可能なようである。10レッスンをクリアする毎に、学習者のスコアに応じて新たな10レッスンのカリキュラムが作成される。自動的に作成されたカリキュラムは「診断テスト」結果を基に、それぞれの学生の英語力にあったレベルを設定するので、徐々にレベルが上がって無理なく学習できる配慮がなされており、着実に英語力をアップしていくことが期待できる。

300レッスンは、「インターネットビジネス」「プレゼンテーションのコツ」「もし大出世したら」「求人への問い合わせ」「空港でのアナウンス」「有名人とマスコミ報道」「オノ・ヨーコの人生」「地球を守る」など学生が興味を持ちそうなトピックから構成されており、その範囲もビジネスから娯楽、旅行、日常生活、環境とさまざまである。また、これらのトピックはTOEICでも頻繁に使われる題材であるので、TOEICの受験を目指す学生に推奨することができる。

## 2-1. RE の構成

RE は step 1～step 7 から構成されており、その流れは次のようになる<sup>2)</sup>。

〈step 1〉現時点での実力を正確に計測するために「診断テスト」を受験する。

〈step 2〉文法、リスニング、リーディングの各分野ごとの重要表現の確認からスタートする。音声とともに動画もでてくるので、英語での説明が多いがポイントはつかみやすい。文法の場合でも重要表現が聞き取れるかどうか、音声を聞きながらの練習問題もあれば、基本例文を聴いた後、自分の発音を録音し、その発音を自分で確認できたりもするので、文法、リスニング、スピーキングの力を伸ばすことも可能である。

〈step 3・4〉文法では重要表現が身についたかどうか短めの文章で穴埋め問題もあり、不正解の際には、間違いやすいポイントも含めた、詳しい解説が提示される。リスニングでもこのステップでは音声を何度でも聞き返すことができるうえ、一旦全体に耳を通すとスクリプトも提示される機能がついているので、随時聞き取れない箇所を文章で確認することができる。そして TOEIC 形式の質問に対し、2つか3つの選択肢から選択しながら、内容が理解できているかどうかを確認する。リーディングもレベル 2 では180語程度の文章を読んだ後、内容を問う質問に対して、選択肢から解答を選び、再度同じ文章を読みながら 5 問程度の True or False Questions に解答して、内容を把握できているかを確認する。日本語全文訳は提供されないが、文章内の質問に対する解答箇所は、解答解説で日本語訳も含めて詳しく説明されている。【図 1・図 2 参照】

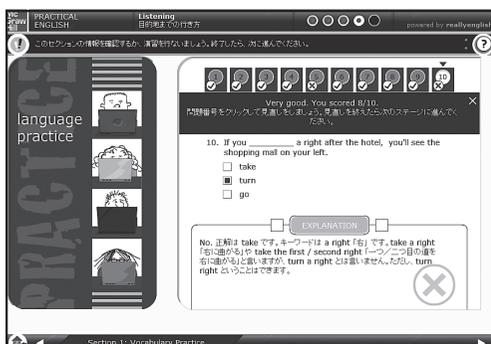


図 1 リスニング「目的地までの行き方」  
Section 1 画面

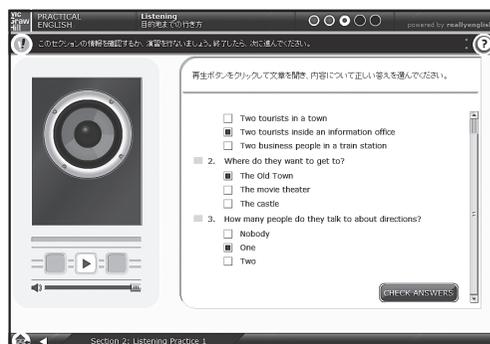


図 2 リスニング「目的地までの行き方」  
Section 2 画面

〈step 5〉ここでは TOEIC のテスト形式に準じた制限時間付きの 270 レッソンのミニテストと、30 レッソンのロールプレイが設けられている。TOEIC のパート 1 から 7 の全てに対応した問題が出題されているので、TOEIC の受験を控えた学生は集中的に問題量をこなすことによって自信をつけることもできるだろう。【図 3 参照】

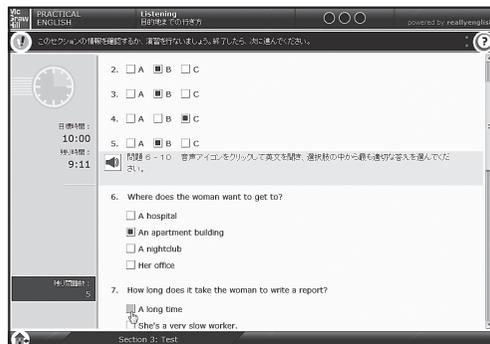


図3 リスニング「目的地までの行き方」 Section 3 Test画面

〈step 6〉ミニテストで70%以上正解すると合格になる。70%未満であれば、レッスン学習修了と見なされず、再度受験して70%以上のスコアを獲得してはじめてレッスン修了するという厳しいハードルも設けられている。

〈step 7〉ここでは、各レッスンのセクション2で取り組んだ教材のまとめをファイルとして保存できる上、プリントアウトもできる。例えば、リスニング「目的地までの行き方」では、図4のようなターゲットとなる語彙と語義のリストと、セクション2のリスニング練習問題のスク립トがダウンロードできる。ポッドキャスト reCast を利用し、iPod® や iPhone® などにアップして持ち歩けばいつでも復習することができ、TOEIC のリスニングの練習にも役に立つだろう。グラマーでは、豊富な例文とともに、文法重要事項がコンパクトにまとめられたファイルがダウンロードできるので、プリントアウトして文法書として活用することもできる。

Mc Graw Hill PRACTICAL ENGLISH powered by reallyenglish	
LISTENING: Directing someone around town	
→ VOCABULARY	
block	the distance on a street between where one street and the next street crosses
walk past	you do this when you see a building on your left, for example, and you continue walking
turn left on	to change direction to the left — down a side street, for example
How far is it?	you ask this question when you want to know the distance to a place from where you are now — 5 km, for example
on your right	you say this when you want to show the position of something to the right of where you are
go straight	to walk in one direction — you do not turn left or right
How long does it take?	you ask this question when you want to know the time it takes to get to a place from where you are now — 10 minutes, for example
take a right	to change direction to the right — down a side street, for example
on the left	you say this when you want to show the position of something to the left of where you are

図4 Listening: Direction someone around town: Vocabulary

### 3. CALL 教室内での RE: New Practical English コース登録

e-Learning 教材は学生が望めば、いつでもどこからでもアクセスでき、学生の英語課外学習教材として最適である。しかし、学生が e-Learning 教材の存在すら知り得ずに、アクセスされなければ、教材としての価値はない。そこで授業に出席した学生全員が RE の学習が開始できるよう授業内でコース登録を実施した。2011年度担当の英語 2a 及び英語 4a の授業では、LL-2 (CALL 教室) を利用しているので、たとえば RE への登録は以下ようになる。

- ①**登録ページにアクセスする**：学内のパソコンからアクセスする登録ページ URL を記載したファイルを学生全員に配布し、クリックすれば直ぐにアクセスできるよう配慮した。
- ②**登録状況を確認する**：パソコンのメールアドレスを入力する。自宅にパソコンを持たない学生に対応する必要があるため、関西大学アクティブメールのアドレスを用いた。また携帯電話のメールアドレスは使用できないので注意が必要である。
- ③**情報を登録する**：ログイン ID、メールアドレス、名前、パスワードを入力する。ログイン ID は基本的にどんなものでも構わないようだが、混乱を避けるため IT センター発行の利用者 ID とパスワードを使った。この登録したメールアドレスに学習開始から RE からのウィークリーメールとして、1 週間ごとに学習進捗度をメールで知らせてくれるので、継続した学習が期待できる。
- ④**修了条件を確認する**：「New Practical English」コースを受講することと、学習期間が年度末であること、各レッスンのセクション 3 にあるレッスンテストで 70% 以上の正解を 50 レッスン以上修了すると、コース修了できる条件に同意する。
- ⑤**学習を始める**：マイページ（ポータルサイト）が表示され、学生全体が学習開始できる状態になるのを確認する。【図 5 参照】

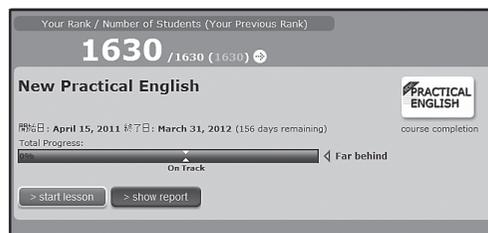


図 5 マイページ（ポータルサイト）画面

- ⑥**「診断テスト」を受ける**：マイページの [start lesson] を押すと、New Practical English 診断テスト画面が表示される（図 6 参照）。授業外で各自「診断テスト」を受けるよう指示することも可能だが、全員の歩調をあわせるためにも授業時に一斉に実施するのが望ましいと思われる。但し、文法、リスニング、リーディングの診断テストはそれぞれ 30 分程度必要とさ

れるので、90分の授業内に実施するのは無理と思われるが、実際は文法、リーディングは15分程度で学生全員が問題解答を済ませていた。時間調整が難しいリスニングを先に受けるよう指示すれば、各学生のペースで順次文法、リーディングを好きな順番で受けるよう指示しても差し支えないだろう。気をつけなければならない点は、一旦 [start test] をクリックし、問題途中で終了してしまったり、操作を誤ってブラウザを閉じてしまったりすると診断テストのスコアが0%とされ、自分の英語のレベルにあった適切な10レッスンのカリキュラムが作成されない恐れがある。学生にとっても診断テストのスコアは「学習レポート」に明記されるので、注意する必要があるだろう。

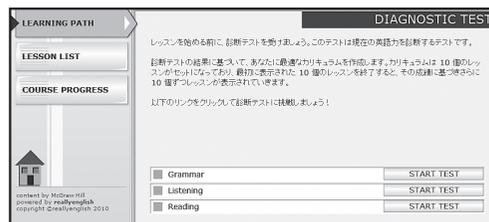


図6 New Practical English 診断テスト画面

#### 4. RE の活用方法

学習課題としてのノルマとして課すことは避け、REの「学習レポート」を提出することで平常点評価の加点とすることを伝えることにした。「学習レポート」とは、学生の「診断テスト」の結果や、文法・リスニング・リーディングのレッスンスコアの平均点、そして実際にどれだけレッスンを進めたかの学習状況を確認できるレポートである(図7参照)。現在のところ、筆者がネット上で学生の学習状況を把握できる状況にない<sup>3)</sup>、春学期終了時にREで学習し平常点に加点を望む受講者に「学習レポート」を提出させた。

6月1日の授業時にRE説明会を行い7月末を期限としたので、今回の実践期間は2ヶ月間である。2011年度に、筆者が担当しているクラスは社会学部2回生と政策創造学部1回生の計2クラスの86名で、学習レポートを提出した学生数は24名であった。全体の28%がREの学習に積極的に取り組んだことになる。コース登録も既に終了し、REにアクセスさえすればいつでも学習が開始できる状況であるが、それでも28%の利用率であるということは、e-Learningによる自主的な学習がいかに容易でないことを表している。

次に、学生から提出された「学習レポート」のデータの分析を行う。今回管理者権限がないので十分な学習履歴情報が得られず、86名中24名の「学習レポート」のデータのみの分析となり、十分な被験者数と言えず、結果の一般化ができないことは否めないが、今後のREの積極的な活用に向けて参考になれば幸いである。

Course Info.							
Course session: PE4 2009 (Japanese)				Study period: 2009-07-26 - 2012-07-25			
Statistics							
Status: 合格	No. of logins: 378	Study duration: 131時43分28秒		First access date: 2009-07-26 21:02:36	Last access date: 2011-10-26 14:14:55		
Lessons		Avg. lesson score by type		Results of Diagnostic Test			
Studied (unique)	300	Grammar	80 %	Test title	Date taken	Score	
Studied (including retakes)	355	Listening	82 %	Grammar	2009-08-21	64 %	
Passed	300	Reading	82 %	Listening	2009-08-21	47 %	
Learning paths completed	8			Reading	2009-08-21	60 %	
Avg. lesson test score	81 %						
Study record							
Lesson name	Type	*Level	Date	Exercises completed	Avg. in exercises	Lesson test	Lesson passed
A Japanese writer living in the U.K.	Grammar	4	2010-02-13	4 / 4	87 %	80 %	Yes
A bad experience at a restaurant	Grammar	4	2009-08-25	4 / 4	88 %	100 %	Yes
A big promotion!	Grammar	3	2010-01-23	3 / 3	91 %	90 %	Yes
A disastrous holiday	Grammar	2	2010-05-28	3 / 3	93 %	90 %	Yes
A famous sports person	Grammar	2	2010-09-24	5 / 5	78 %	100 %	Yes
A good place to live	Grammar	2	2010-09-05	4 / 4	95 %	90 %	Yes
A life-and-death experience	Grammar	2	2009-12-12	3 / 3	91 %	90 %	Yes
A life-and-death experience	Grammar	2	2011-05-18	0 / 3	-	80 %	Yes
A new start	Grammar	4	2010-11-08	4 / 4	88 %	80 %	Yes
A resume	Grammar	3	2010-10-15	3 / 3	100 %	95 %	Yes
A smart criminal	Reading	2	2010-07-06	7 / 7	97 %	84 %	Yes
Advice for a sick friend	Grammar	2	2010-01-15	4 / 4	79 %	100 %	Yes

図7 学習レポート画面

#### 4-1. アクセス数と学習時間について

RE へのアクセス回数を図8に示した。最低週1回はアクセスしたことを意味するアクセス数10回以上の学生数は20名で、全体の83%を占めている。週2回以上となる16回以上のアクセスも12名で、全体の50%に及んでいる。学習を開始して週1回アクセスすれば80%以上の学生が、学習を継続できることを意味している。従って学習開始から最初の1ヶ月間、教員が学生の進捗度をモニターしてアクセス数4回以下の学生に注意を促すことで、継続率を高めることができそうだ。教員が管理者権限を持つことによって、学生の学習進捗度を随時確認できるので、学生の最初期の学習状況を正確に把握し、学習継続を促すことが重要と思われる。

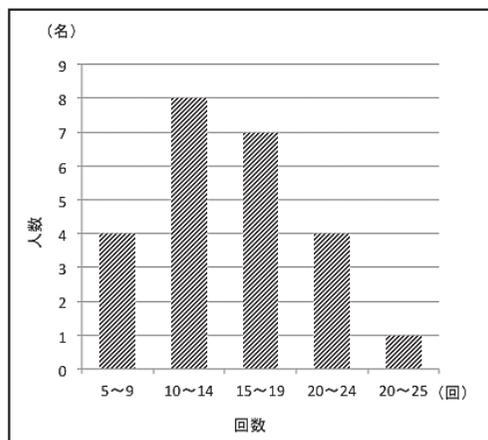


図8 REへのアクセス数

REの学習時間を図9に示した。REの学習は完全に課外学習なので、授業以外にどれだけ英語に費やしたかの目安になるが、授業1コマに相当する90分以上を授業外で学習した学生が20名で全体の約83%を占める。最近、授業の予習復習にすら時間をかける学生が少なくなっている中で、REを授業外での課題にすることで、英語学習時間が増えることが期待できそうである。

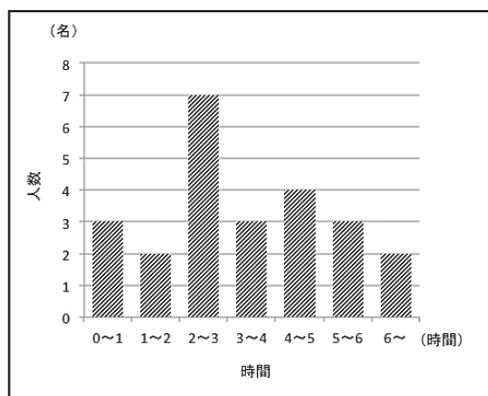


図9 REでの学習時間

#### 4-2. 診断テストの結果

学習レポート提出者24名の文法・リスニング・リーディングの「診断テスト」結果の人数分布は次の図10のような結果となった。

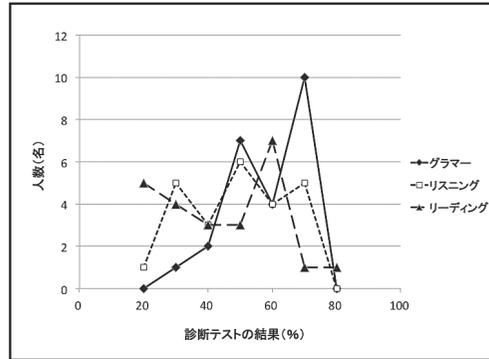


図10 診断テストの結果

〈文法〉診断テストの平均正解率は65.3%、標準偏差値は3.82である。診断テストで60%以上のスコアを取得できた学生数は14名で全体の58%を超える結果となり、中学・高等学校において、また大学1年次での英語の授業の学習成果がうかがえる。40%未満のスコアを取った学生は1名であり、全体の4%に過ぎない。

〈リスニング〉診断テストの平均正解率は53%、標準偏差値は2.2である。ここでは50%未満のスコアを取得した学生が9名で、全体の約38%にも及んでいる。現在のREではTOEIC350-450程度の問題のレベル2からしか学習できない設定になっているが、レベルが高すぎて、何を言っているのか聞き取れず、途中で学習継続が困難になってしまう可能性があるため、TOEICが350点未満のレベル1から学習できるよう配慮が必要であろう。一方で20%程度のスコアの学生のリスニング力は、知っている単語をなんとか聞き分けられるレベルであると考えられる。このREは基本単語の綴りから学習できるソフトではなくTOEIC350点程度以上の単語力がある学生を対象としているので、極端にリスニングに自信のない学生にはニンテンドーDS「えいご漬け」を活用した学習を勧めたい<sup>4)</sup>。

〈リーディング〉リーディング診断テストの平均正解率は44.4%であり、標準偏差値は2.15である。またスコアが50%未満の学生が12名で、全体の50%を占める割合になった。スコアが30%未満である学生が5名もいる。結果が伸び悩んだ理由として、リーディングの診断テストは、解答に時間制限がある上に、長文を読みこなした上で解答しなくてはならない点が挙げられる。診断テストのスコアが30%以下の学生にとって、TOEIC350点以上のレベル2から練習するのは、かなり困難であることが予想されるので、レベル1のElementary Practical Englishを導入することを検討することも考えられる。そうでないと、レッスンの合格基準になっている70%以上になかなか到達できずに、何回も同じ問題を繰り返しやらねばならず、最後にはやる気をなくして学習継続が難しくなるだろう。TOEICのリーディングのパートの英文を時間内で読み終えるためには、1分間で150語から180語を読み終える速読力が必要と言われている。診断テストで50%以上のスコアを取得できた学生ならば、REのリーディングのレベル2以上

の文章を読みこなすのは問題ないだろうが、30%を正解できない学生は、REを始める前に、Oxford University Press、Longman や Cambridge University Press から発行されている Graded Readers の Starter から英文多読を始めるがよいだろう。長文を読むことに慣れておらず、英文を読む自信のない学生にとって、英文を辞書なしで読んで分かる経験がなければ、英文を読むのは限りなく辛い作業である。そんな学生には、英語レベルを下げ辞書なしでも軽く読み通せるものから学習を始めることを強く薦めている。この方が学習を継続できる可能性が高いからである。

#### 4-3. レッスンスコアの伸び

「学習レポート」には学生が取り組んだ文法・リスニング・リーディングの各分野のレッスンスコアの平均点が表示されており、「診断テスト」のスコアと比較して、どれだけ伸びたかが示されている。

〈文法〉「診断テスト」でも平均点の高かった文法において、REによって作成されたカリキュラムによりレベル2～レベル4までの範囲から適当なものが選別されたものを、学生は学習することになる。「診断テスト」時の平均点65%から、2ヶ月間学習に取り組んだ後では、文法レッスンの平均正解率は、13%も高い78%まで上がってきている。このことは学生は自分のレベルに合った問題に取り組んできたことを示していると思われる。平均レッスン学習数は2.7で、学習レッスン最高数は8であった。

〈リスニング〉「診断テスト」では平均正解率53%を下回る学生が多くいた。取り組んだ後のリスニングレッスン全体の平均点は74%となった。

「診断テスト」と同等のレベルを学習している訳ではないので、リスニングの力が伸びたとは断言はできないが、21%の上昇が見られた。一方でまったくリスニングのレッスンを受講していない学生が2名おり、レッスンスコアで平均10%代の学生も2名いる。レベルが高すぎて、演習に十分対応できていない可能性があるため、別途対応する必要がある。平均レッスン学習数は2.7で、学習レッスン最高数は7であった。

〈リーディング〉「診断テスト」のリーディングの平均正解率は44%で、成績分布も50%以下の学生が半分もおり、REの問題のレベルの高さについて行けるかどうか心配であった。しかしながら、リーディングのレッスンスコアの平均正解率は75%であり、合格基準となっている70%を上まわっており、平均点も31%上昇している。但し「診断テスト」で20%しか取得できなかった学生は、合格基準点に1回のレッスンでは到達できない場合が多いようである。平均レッスン学習数は3で、最高学習レッスン数は8であるのだが、各レッスンセクション3で行われるレッスンテストで70%の合格基準に達せず、再チャレンジする学生が多く、再チャレンジの回数を含めると、平均レッスン学習数は4.5回に上がり、学習レッスン最高数は13回にも及んでいる。

レッスンテストで70%をクリアしないと合格と認められず、学習済みレッスンとはカウントされないので、学生は合格するまで何度も同じ問題にチャレンジすることになる。「診断テスト」において20%程度の判定がでていた学生にとって、REのレベル2の問題群はかなり難しく感じられただろう。合格するまで何度も繰り返す利点はあるが、挫折して途中で放棄してしまう学生をも生むことになりかねない。

#### 4-4. どの位のレッスンが適量か

REの案内書では、全300レッスンを修了するのに、225~300時間程必要とあるので、コース修了の規定数である50レッスン合格するには50時間程度を英語学習に費やすことになる。そのため、春学期の授業全体15回分の約2倍の時間を費やすe-Learningの教材を学習課題とするのは躊躇した。学生にのみ取り組ませるのに後ろめたさも感じたので、筆者もコース修了となる50レッスンをクリアするまでやってみた。6月1日から開始し、7月16日に14時間かけて修了することができた。それでも約9回分の授業時間に相当するので、学習課題としてはかなり多いだろう。参考までに今回学習レポートを提出した学生で、一番レッスンを多く合格した学生は20レッスンで、計7時間39分を要している。2番目は18レッスンを6時間52分で終えた学生が続いている。どちらも社会学部に所属する2年次生で、英語を専門としていない学生であるのに、これだけ英語の課外学習に取り組んだのは評価したい。

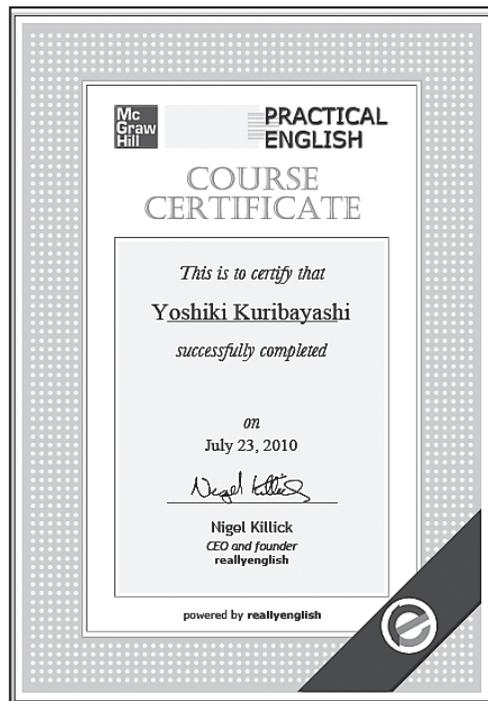


図11 修了証書

英語を専門としない学部生を対象とする場合、各学期の目標は、コース修了の半分25レッスンが適量ではないだろうか。学生によっては、数ヶ月以内にTOEICを受験するつもりで相談に来ることもあるので、その場合は、頑張れば2ヶ月間でコース修了できることを先に伝え、50レッスンを課題としてはどうだろう。英語を専門とする学生ならば、各学期でコース修了を目指すよう伝えても構わないかもしれない。春学期・秋学期とも同じ顔ぶれの学生達を担当できるのであれば、1月末の授業最終日に、コースを修了すると同時に発行される修了証書（図11参照）の提出を求めるのが良いように思われる。修了証書が果たして学習継続を促すきっかけになるかどうか不確かであったが、筆者でさえ実際にコースを修了してプリントアウトしてみると不思議と達成感が得られたので、学生はもっと達成感が得られるのではないだろうか。

50レッスンを修了すると、新たに10レッスンのカリキュラムが作成された。進捗度の早い学生がコースを修了しても、300レッスン終わるまで学生のレッスンスコアに応じたカリキュラムが作成されるので安心して学習継続を促せるシステムになっているようだ。

## 5. REに対する学生からのコメント

2ヶ月間REを活用して英語学習した学生からのコメントは以下の通りである。

- ・順位が出てくるのはやる気が出てくるので、よかったです。
- ・毎回順位が出て、レッスンを終えるごとに順位も上下したりするのが面白かった。間違った問題の解説も、分かりやすく良かった。少しの時間でもできるのも、良いと思う。
- ・説明も分かりやすかったし、順位が上がっていくのも励みになりました。リスニングも単語も長文もできたので、良かったです。
- ・文法、リスニング、長文と全ての分野があり、良かった。
- ・TOEICを取るための勉強に大変役に立った。もう少し続けてみようと思う。
- ・問題数が多く、いい復習になった。解説も詳しく、とても分かりやすかった。
- ・自分の苦手な範囲が結構多くて、苦痛なときもあったけれど、他で問題など解くときにREに出た単語や文法がでてきたりして、以前は解けなかった問題も少しは解けるようになったのが嬉しかった。REを利用して少しずつ苦手な範囲を克服していきたいです。

図5に表示されている数字は、REに登録した学生の総数に対する、現時点での順位である。学習したレッスン数を基に順位が表示されているので、学習量によって順位が上下することが、学生の励みになるようだ。「途中でやめるとまた初めからやらなければいけなくて面倒くさかった。」というコメントもあるのだが、[finish] ボタンを押す前に各セクションを終了したり、手違いでブラウザを閉じてしまうと、その日の学習を開始してからの履歴が残らずに、次回そのセクションを最初からやり直さなくてはならないので注意が必要である。

## 6. RE と ALC NetAcademy® との比較

2010年度まで利用できた ALC NetAcademy® 「スタンダードコース」「初中級コース」では、学習開始時に「語彙力診断テスト」及び「リスニング力診断テスト」を受験し、語彙力は8段階、リスニング力は5段階のレベル判定が行われ、学生はその判定に従って学生自身で学習ユニットを選ぶ必要があった。自分の選択した学習ユニットのレベルが適切かどうか確認できる手段がなく、「語彙力診断テスト」及び「リスニング力診断テスト」も一回のみ受験が可能であったので、継続した学習の後、自身の英語力の伸長度を測ることができなかった<sup>5)</sup>。

RE は初回の「診断テスト」に基づいて学習者のレベルに応じてカスタマイズされた10レッスンのカリキュラムが作成され、苦手な分野を重点的に学習できるという特徴がある。また各レッスンはTOEICを模した演習形式になっており、各レッスンのレッスンテストの平均正解率が文法・リスニング・リーディング別に「学習レポート」に提示されるので、自分の英語力に合ったレッスンかどうかの確認も容易である。また10レッスン毎に新たに組まれるカリキュラムも、学生のレッスンテストのスコアを反映させて組まれるので、英語力の伸長度に合わせ適切なレベルのレッスンに取り組める工夫がなされている。また ALC NetAcademy® 「スタンダードコース」「初中級コース」にはない、文法に特化した70レッスンが含まれているのが大きな違いである。文法の力がTOEICの得点を伸ばすのに不可欠であることを考えると、演習形式で文法の重要事項を再確認できるレッスンが組み込まれていることは重要である。

レッスン量が多く、終わりの見えにくい e-Learning 教材は学習継続が困難であるが、RE は50レッスンをレッスンテストにおいて70%以上の成績を修めれば、コース修了となり修了証書も発行されるので、学生にとって達成感を得られる仕組みになっているのが特徴である。

また e-Learning は学習者個人の孤独な作業となりがちであるが、RE には My Page に Forum があり、そこは英語学習に関するコミュニケーションの場が提供されており、学習に関して専属のコーチや他の学習者に直接質問したり、意見を交換したりするソーシャル・ネットワーキング・サービスの場が用意されているのが、ALC NetAcademy® にはない大きな違いと言えるだろう。

## 7. RE のより積極的な活用に向けて

関西大学では RE 導入初年度ということもあるだろうが、インフォメーションシステムでの連絡だけでは、学生がほとんど気づいていなかったこともあるので、CALL 教室内の学生用パソコンの起動画面に RE のエイリアスを置くだけでも随分とアクセスしやすくなるだろう。また、学生にとっても RE の最初の登録作業が複雑な上、授業で登録を実施する際も随分と手間

取ってしまったので、システム上問題がなければ、学生が普段利用している IT センターの利用者 ID とパスワードを先に大学側で学生、大学院生全員の情報を登録することで随分使い勝手が良くなると思われる。

学生が継続して e-Learning の教材に取り組むためには、授業内で実際に教材として活用するか、もしくは RE の取り組みを義務化するのが効果的であろう。そのためには、実施する教員も RE の特性を理解し、適切な量を課題として課す必要もありそうだ。英語力の向上を目指す学生に対し、明確な目標基準を提示できれば、担当科目が違う教員同士も目標を共有しやすい。現在就職活動に励む学生からは、「某会社のエントリーに TOEIC で 500 点以上必要である」、「内定をもらったが、入社までに TOEIC で 450 点以上とるように言われている」という声が聞かれ、また大学院を目指す学生からも「理系の大学院の英語の試験に TOEIC の得点を代用されるので、できるだけ高得点をとりたい」という声も聞かれる。

今後 RE が積極的に活用され、学生の RE における学習時間、学習レッスン量、レッスン正解率と TOEIC の得点との相関関係が提示できるだけのデータが集まれば、年次毎の英語力の伸長度の適切な目標基準を決め、それに向けて授業外での RE を活用した課外学習の具体的な取り組み内容を学生に伝えることが可能となるだろう<sup>6)</sup>。特定の教員からだけでなく、英語を担当する全ての教員から学生に対し RE の学習継続を促されるようになれば、大きな成果を生むことになるだろう。

各学生の学習状況を正しく把握し、学生を個別に指導する方が、e-Learning 学習を継続できる可能性が高いのだが、今回学生の診断テストの結果・学習状況・学習進捗度を知る管理権限がなく、学期末に提出された「学習レポート」だけでしか判断できなかった。全ての英語教員に受講生の管理権限が与えられ、パソコン上で教員用管理画面にアクセスできるようになれば、学習途中でも適宜教員から継続を促すアドバイスなどで、学生の学習意欲もたかまるだろう。

今後、学習管理機能を使って、学習履歴をもとに、文法、リスニング、リーディングそれぞれの分野の学習済み練習問題全体の平均点や、学習済みの課題名・レベル、および各分野におけるレベル 2～4 それぞれの平均点が把握できるようになれば、教員にとっても指導しやすくなるだろう。学生のなかには、自分の英語力に合わないレベルの問題に取り組んで、どのレッスンも不合格ばかりの学生もいるので、学習管理機能を使って、各学生が行った各レベルの練習問題の平均を把握し、レッスン一覧（レベル表記有り）を参照することで、その学生にとってレベル 3 では難しいと判断すれば、レベル 2 の学習を薦めることも可能となる。

なお、RE にはフィードバックシステムがあり、メールにて問題に関する質問、英語学習に関する相談など随時受け付けているので、学生には質問があれば、Feedback へメールするよう伝えておく必要がある。

## 8. まとめ

優れた e-Learning 教材でも、学生にとっては継続が難しいのが現状である。しかしながら、今回春学期に導入した RE をはじめて使用して、課題をノルマ化した訳でもないのに30%近い学生が熱心に取り組んだことは、今後の活用に期待が持てるという実感を得た。さらに、学生の「学習レポート」の記録から、1年間の学習課題として RE コース修了となる50レッスンを課すのは全く問題ないこともわかった。次の秋学期には、担当する学生が全員 RE に取り組むように、学習課題として RE をノルマ化することを学生に伝えることにしている。学習をノルマ化することによって、春学期と秋学期の RE の学習進捗度、レッスンスコアの得点の伸長度に変化があるかどうか、またの機会に報告したいと考えている。

e-Learning 教材に取り組む際にはコーチングが欠かせない。教員が、定期的に学生の学習状況を確認しながら、順調に学習を進めている学生には「ほめ言葉」を、そして進捗度が悪い学生には「励ましの言葉」をかけるだけで、学生のモチベーションは大きく変わるものである。レベルの高いレッスンでスコアが伸び悩む学生には、少しレベルを下げてみるよう教員からのアドバイスがあれば、無理をせずコースを修了する可能性も高まるはずだ。e-Learning 教材が効果的に活用されるには、このような教員によるコーチングが重要である。今後学生が RE で楽しみながら学習を継続できるようなコーチングを行いたい。

また、学生にとっても、どの位 RE で学習すると TOEIC のリスニングやリーディングが伸びるのか興味があるだろうし、今後 RE が学生に支持される教材となるためにも、RE で学習した学生の TOEIC の成績も追跡調査する必要があると思われる<sup>7)</sup>。

### 註

- 1) 柏原郁子「e-Learning 教材における効果的指導法 ALC Net Academy を用いた実践授業と学生による授業アンケート評価」『外国語教育フォーラム』関西大学 第4号、2005 pp. 79-92
- 2) レッソンの流れは、reallyenglish eラーニングコースカタログ2010 New Practical English pp. 5-6 に拠る。
- 3) 今後、学習管理機能を使って、把握できる状況になる。
- 4) 柏原郁子「ニンテンドーDS による英語教育の試みとその可能性—「DS de イングリッシュ」で楽しく英語力アップ—」『大阪電気通信大学 人間科学研究』大阪電気通信大学 第9号 2007.3 pp. 55-71  
「えいご漬け」で取り上げられている単語は、桐原書店刊「データベース3000基礎単語・熟語（新装版）」によっているので、単語力に自信の学生でも十分対応できるし、単語の綴りだけでなく、例文を全部ディクテーションできるので、聞き取りにくい冠詞や前置詞まで正確に聞き取れるようになる。
- 5) ALC NetAcademy® 2 では「語彙力診断テスト」及び「リスニング力診断テスト」とも複数回受験が可能である。
- 6) ただし、RE を導入している企業の受講者約500名をサンプリングして相関を調査したところ、6

ヶ月間で60レッスンを学習すれば、学習開始時点から60点が伸びることが期待できるとしている（RE社資料より）。

7) 上述の注のように、企業の受講生の情報も参考になるが、今後、学生の調査も行う必要がある。